

草津温泉 共同浴場

Kusatsu Kyoudou Yokujou
(群馬県草津町)

■地蔵の湯



草津には 20 か所近くの外湯（正式には「共同浴場」）があるという。今回紹介するのはそのうちの 3 つだ。3 つしか紹介しない理由は、他の外湯はコロナ対策のために観光客の利用が禁止されているからである。まずは地蔵の湯から。そもそも外湯というのは利用料が無料。中に入ると狭い玄関があり、そこでは靴だけでなく、靴下も脱ぐ。脱衣場と浴室が一体化しており、脱衣場の床が濡れているので、靴下を濡らしたくなければ、ここで脱ぐしかない。地蔵の湯には下駄箱も存

在しない。脱いだものを入れる棚は 9 個ある。靴はこの棚の下の辺りに置く。浴槽の定員は 4~5 人。洗い場はないが洗面器は 5 個程度置いてある。石鹸の使用は禁止はされていないようだ。湯は熱いが、取材した日は 11 月。夏はもっと熱いらしい。常連客がそのように言っていた。浴槽と脱衣場との距離は 1.5m くらいしか離れておらず、浴槽の周囲には真新しいすのこが敷いてある。火照った体はすのこの上に座って冷やす。これが草津スタイルのようである。尚、地蔵の湯の前には地蔵尊があり、足湯と顔湯がある。

■白旗の湯



湯畑の近くにあり、地蔵の湯より大きな施設である。この施設には下駄箱があり、脱いだものを入れる棚は 14 個、浴槽は 2 個ある。一方の浴槽は大変熱く、もう一方なら何とか子供でも入っている。ぬるい方の浴槽の上には湯気抜きがある。熱い方の浴槽には 10 秒も入ってられないが、常連客には関係がないようだ。これでも夏よりは温度が低いと自慢げに話をしている。敗北感が漂う。この敷設の常連客というか地元民に

はマナーうるさい人がいるそうで、タオルも持たずに浴室に入ろうとすると、追い返されるといふ。要は、タオルがないと体をふかずに脱衣場まで戻ることになり、脱衣場の床が濡れたい放題になる。それではイカンというわけである。尚、この施設では、石鹸は使用できないと書かれていた。湯が強酸性につき、使っても無駄ということなのか。使わぬとも美肌になるとの注意書きがあった。自信たっぷりである。

■千代の湯



今回紹介する3つの外湯の中では最も規模が小さい。場所は湯畑に近い。脱いだものを入れる棚が7個あるが下駄箱はない。浴室は非常に狭く、家庭用の浴室の3倍くらいの大きさだ。浴槽は定員3人程度。やはり湯温は熱い。なぜかこの泉質はアルカリ性であると書かれており、やはり石鹸は使えないという。湯は白濁していたが、湯を引いている湯畑で掃除をしていたからかもしれない。普段は無色透明であるという。

尚、草津温泉には「もらい湯」という言葉があるらしい。観光客が外湯の湯を地元の人からもらうという意味だ。しかし、元来は宿に泊まる武士等の支配階級の湯を、地元の人もいただくという意味だったという。今回、3つの湯をもらった。草津の湯は熱い。手強いので、覚悟して訪れねばなるまい。

DATA

	地蔵の湯	白旗の湯	千代の湯
営業時間	8:00~22:00	5:00~23:00	5:00~23:00
入浴料	無料	無料	無料
サウナ	なし	なし	なし
サウナ内のテレビ	なし	なし	なし

所在地 群馬県吾妻郡草津町大字草津
 電話 0279-88-0800
 取材日 2021年某月某日
 取材 銭湯愛好会東京支部
 最寄りのスキー場 草津温泉